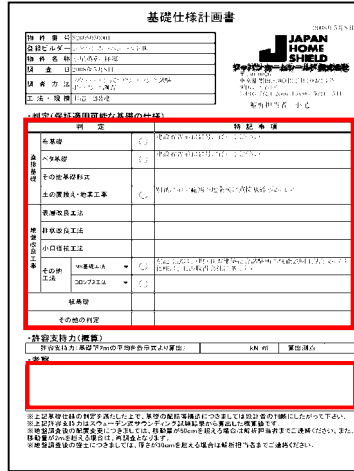
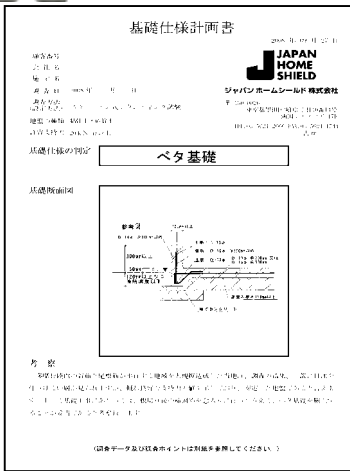


基礎仕様計画書がリニューアルします



日ごろよりJHSをご利用いただきましてありがとうございます。
このたび、基礎仕様計画書のスタイルが変更となりますので、お知らせいたします。2008年12月1日解析分から順次変更してまいります。



変更の概要

従来の基礎仕様計画書に貼付していた、基礎断面図を廃止し、それに替えて、複数の判定を表示可能としました。

判定

判定 (保証適用可能な基礎の仕様)		特記事項
直接基礎	布基礎	建設省告示1347号に従ってください。
	ベタ基礎	建設省告示1347号に従ってください。
	その他基礎形式	
	土の置換え・地業工事	別紙に示す範囲の地業後に直接基礎となります。
地盤改良工事	表層改良工法	
	柱状改良工法	
	小口径杭工法	
	その他工法	MS基礎工法 左記工法は、特許等の特殊工法となります。仕様は、該当施工会社の指示に準じます。 コロンプス工法 左記工法は、(財)日本建築センターの技術審査証明工法となります。仕様は、工法取得会社の指示に準じます。
杭基礎		
その他の判定		

従来の基礎仕様計画書に貼付していた、基礎断面図は廃止とさせていただきます。それにかわりまして、今までは最大2種類しか判定が出せませんでした。3種類以上の基礎判定の提示が可能となります。保証適用が可能な基礎仕様をより多く提示する事により、ビルダー様の選択範囲が広がります。また、工法毎の注意事項等が記載されます。
(基礎の配筋等は別紙参照)

許容支持力

許容支持力(概算)	
許容支持力	< 20 kN/m ² 算出測点
考察	

従来通りの、考察が記載されます。許容支持力は下記のように表記が変わります。

- ・ 20 k N/m²未満 < 20 k N/m²
- ・ 20 k N/m²以上 20 k N/m²
- ・ 30 k N/m²未満 < 30 k N/m²
- ・ 30 k N/m²以上 30 k N/m²

注意事項

判定に のある工法が保証適用可能となります。上記基礎仕様の判定を満たした上で、基礎の配筋等構造につきましては設計者の判断にたがって下さい。
地盤調査後の配置変更につきましては、移動量が50cmを超える場合は解析担当者までご連絡ください。また、移動量が2mを超える場合は、再調査となります。
地盤調査後の盛土につきましては、厚さが30cmを超える場合は解析担当者までご連絡ください。